

◇ グループ活動

グループごとにフィールドワークを中心に活動しました。

★植物グループ&動物グループ ★1

シェルター構造上部の植生管理

植物グループと動物グループが協力して、シェルター構造上部の植生回復が遅れている場所に、ドングリポット（コナラ）を30本植栽しました。今回の植栽では、苗木が雑草からの影響を受けにくくするため、根元に防草シートによるマルチングを行いました。



1本ずつ、根元にマルチングを行います。

「マルチング」って何？

地表面の飛散、流出の防止、雑草の生育抑制、保温、保湿による植物生育の促進のために地表面をなんらかの方法で覆うことをいいます。

今回、使用したのは、**トウモロコシ**を原料としたもので、将来的には分解されて土になる生分解性の防草シートです。



防草シートを留める目串は、竹を利用して作りました。



植生回復が遅れている場所は、クヌなどの雑草の影響があるところだね。



植栽後のようす
～シェルター構造上部～



～ 植物グループ ～

平成23年度も引き続き、植生回復のための苗作り、種の採取を行っていきます。苗の植え付けや播種は年間予定と併せて順次行います。

シェルター構造上部では、平成17年度に植栽した箇所の植生管理を昨年度実施したので、今年度は、平成18年度の植栽箇所を植生管理します。

～ 動物グループ ～

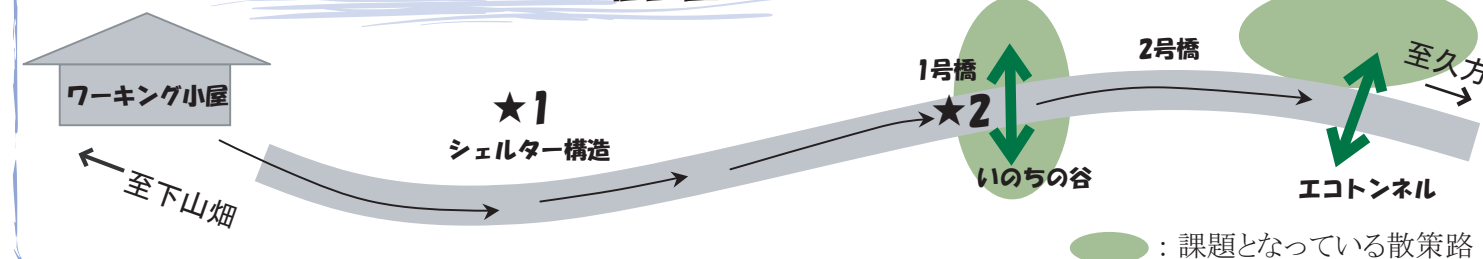
★動物グループ

平成23年度もタヌキの調査を継続していきます。カメラによる定点観測だけでなく、モニタリングに有効なその他の方法も検討していく予定です。

次回以降の活動では、昨年末に播種した場所の発芽状況や、壁面緑化の状況調査を行っていく予定です。



★フィールドワーク位置図



：課題となっている散策路

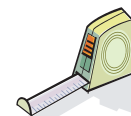
★交通グループ&施工グループ ★2

現地調査

いのちの谷付近の散策路について、交通グループと施工グループが協力して、計画位置の確認と今後の検討に必要なデータ収集を行いました。

地形測量を行って、高さの関係を把握しました。

調査の結果を踏まえて、次回以降、実際の対策を行っていきます。



まずは、現地で確認してきた状況について話し合います。



どんな作業が必要になるかな？



正確なデータ収集には、息の合った作業が必要です！

今後の活動は…

- ◆工事用フェンスの管理用出入口の位置を変更します。
- ◆地下鉄の開通などによる相生山周辺の交通の流れの変化について、交通量などのデータを基に分析していきます。
- ◆散策路と歩道との接続のあり方（森と道の一体的な整備）についても話し合っていきます。

★施工グループ

観測箇所の点検

継続している観測のうち、シェルター構造上部の観測孔No.3は、土砂が堆積しているように思われるため、清掃することにしました。

また、湧水量の観測地点も三角堰に土砂などが堆積していたため、土砂をかき出す作業を行いました。

三角堰が古くなってきたので、万が一の時のために正確な堰の位置や高さを確認しておく必要がありますね。



清掃のため、観測孔の上部を30cm切りました。



土砂をかき出しました。



今後も引き続き観測を行っていきます。湧水量調査地点は、再び土砂が流れて堆積する可能性があるため、その様子にも注意していきます。